



第31回 新聞労連 ジャーナリズム大賞 募集開始！



ジャーナリズム大賞

足田桂一郎賞

ジャーナリズム大賞 全国紙、地方紙を問わず優れた記事や取材者を正當に評価し、激励するために制定した顕彰制度で、新聞労連加盟組合の組合員が取り組んだ「平和・民主主義の発展」「言論・報道の自由の確立」「人権擁護」に貢献した記事・企画・キャンペーンなどが選考対象です。

足田桂一郎賞 2006年に創設されました。足田さんは、新聞取材と報道の本質を徹底的に追究して、ジャーナリズムの世界に大きな影響を与えました。「ある事件記事の間違い」などを執筆し、生涯一記者を通した足田氏のご遺族から提供された基金で運営されています。主に「人権を守り、報道への信頼増進に寄与する報道」に対して授与されます。

対象記事・企画

2025年12月23日～2026年12月21日

締め切り

2026年12月21日(月)10時まで必着

選考委員

安田菜津紀さん（Dialogue for People副代表／フォトジャーナリスト）
浜田敬子さん（前Business Insider Japan統括編集長。元アエラ編集長）
青木理さん（ジャーナリスト・元共同通信記者）
臺宏士さん（元毎日新聞記者・『放送レポート』編集委員）

応募方法

指定応募用紙に必要事項を記入し、作品と共に電子データ（PDFファイル）で送って下さい。メールのほか、大容量のファイル転送サービス（ギガファイル便等）の利用も可能です。

詳細はこちら



問い合わせ先 新聞労連 新聞研究部



03-5842-2201

新聞労連 加盟組合 御中

新聞労連

第31回ジャーナリズム大賞

第21回足田桂一郎賞

10月1日（木）、**募集開始**のお知らせ

【ジャーナリズム大賞】 大賞、優秀賞、特別賞

新聞労連ジャーナリズム大賞は、当初新聞労連ジャーナリスト大賞として、1996年に制定されましたが、2012年に名称変更しました。全国紙、地方紙を問わず優れた記事や取材者を正當に評価し、激励するために制定した顕彰制度で、新聞労連加盟組合の組合員が取り組んだ「平和・民主主義の発展」「言論・報道の自由の確立」「人権擁護」に貢献した記事・企画・キャンペーンなどが選考対象です。

「足田桂一郎賞」は、2006年に創設されました。足田さんは、新聞取材と報道の本質を徹底的に追究して、ジャーナリズムの世界に大きな影響を与えました。「ある事件記事の間違い」などを執筆し、生涯一記者を通した足田氏のご遺族から提供された基金で運営されています。主に「人権を守り、報道への信頼増進に寄与する報道」に対して授与されます。賞状・賞金のほか、レリーフを贈呈します。

昨年は **26点** の応募がありました。今年も、多くの作品のご応募をお待ちしております。

●対象記事・企画

2025年12月23日～2026年12月21日

注) ご応募は電子データ (PDFファイル)

●募集期間

2026年10月1日（木）～12月21日(月)**朝10時まで必着**

注) ご応募は電子データ (PDFファイル)

応募について（全賞共通）

●対象作品（自薦他薦は問いません）

原則として 2025 年 12 月 23 日（前回の締め切り日）～26 年 12 月 21 日の期間中に掲載・配信されたもので、締め切り日時点で連載中のものも可。新聞労連加盟組合の組合員が取り組んだ作品。グループや班で執筆した場合、メンバーに組合員がいれば大丈夫です。労組を通じてのご応募でも、組合員個人からのご応募も両方 OK です。応募作品は全て各労組別に、作品名と応募者名を連絡・確認させていただいております。

<応募先>

メールアドレス：<shinken@shimbunroren.or.jp>

メールタイトル：ジャーナリズム大賞係

☆ご応募いただきましたら、担当より「受け取りました」の返信をさせていただきます。返信があって初めて「ご応募完了」となります。

●応募方法

応募（推薦）理由と、記事の意義や特徴（取材動機・目的、紙面割のポイント、読者の反響などの「推し理由」）を指定 **応募用紙**（入手アクセス先後記）に記入し、作品を電子データ（PDF ファイル）で送って下さい。メールのほか、大容量のファイル転送サービス（ギガファイル便等）の利用も可能です。

<応募方法詳細>

1 労組から複数のご応募も問題ありません。以下の<よくある質問>をご参考になさってください。

作品を PDF ファイルにする際には、作品ごとに選考委員が読みやすいようになるべく 1 つにまとめてください。記事個々を PDF にして 10 個も 20 個も添付すると選考委員は 10 回も 20 回もファイルを開閉して読まなくてはならなくなってしまいます。

記事 PDF が、数個程度の場合は、読む順番がわかるようなファイル名（例えばプロローグ、パート 1、パート 2、エピローグなど）にするか、読む順番通りに番号を振ってください。

さい。

また、ネット掲載記事などでリンクを張る場合は、期限をご確認ください。期限切れで読めなくなっていたり「この先有料」となっていると読めませんので、そのような場合はPDF にしてください。

<よくある質問>

Q 新聞協会賞に応募するような大ニュースや、チームで取り組んだ大規模な連載でないと選考対象にならないのでしょうか？

A 地方版のニュース・連載や、個人で手掛けた記事も選考対象です。同じテーマのニュースや特集をひとくくりにして「〇〇に関連する一連の報道」という形式での応募もOKです。ジャーナリズム大賞には、若手の記者の意欲的な記事を対象にした「足田桂一郎賞」もあります。

Q 新聞協会賞やJ C J（日本ジャーナリスト会議）賞など、ジャーナリズム関連の他の賞に応募した作品や、すでに受賞した作品でも応募できますか。

A 新聞労連の各賞の募集要項に合致した作品なら応募できます。

Q 応募には所属労組の推薦が必要なのですか？

A 不要です。自薦でも構いませんし、労連加盟労組の組合員による他薦も受け付けます。過去には職場単位の推薦もありました。ただし、応募があった旨を所属労組に通知します。また、他薦の場合も同様に所属労組に通知します。

Q 応募は1 労組につき1 作品に限られますか？

A 複数作品の応募も歓迎します。

Q 非組合員の記事でも応募できますか？

A 対象記事は新聞労連加盟労組の組合員が手掛けたものに限ります。ただし、管理職が執筆に関与した記事でも、組合員が参加したチーム取材なら応募可能です。労連に加盟していない労組の組合員の記事は審査対象外とします。

Q 記事のテーマが選考対象に当てはまるかどうか迷っています。

A 幅広い視点で審査しますので、これはと思う作品があればお送りください。**過去の受賞作**もご参考になさってください。

●選考委員

安田菜津紀さん（Dialogue for People 副代表／フォトジャーナリスト）
浜田敬子さん（前 Business Insider Japan 統括編集長。元アエラ編集長）
青木理さん（ジャーナリスト・元共同通信記者）
臺宏士さん（元毎日新聞記者・『放送レポート』編集委員）

●表彰 各賞とも応募作品の中から4人の選考委員が選びます。

大賞・優秀賞・特別賞それぞれに賞状及び賞金
疋田桂一郎賞 賞状及び賞金と盾

●応募用紙と過去の受賞作品

こちらから入手なさってください

URL <https://qr.paps.jp/KgaMZ>

QR コード→



みなさんの仕事を振り返ってみてください。「これ、応募してみようかな」と思った方は、どうぞ！12月の締め切りまで、まだ時間もあります。これからの企画や連載もあるでしょう。多くのご応募をお待ちしております。

●問い合わせ先 新聞労連（担当書記：及川）

TEL:03-5842-2201 / E-Mail: shinken@shimbunroren.or.jp